

平成 26 年度 事業報告

平成 26 年度は、当財団の設立目的に則り、動物衛生、延いては公衆衛生に寄与するために以下の事業を展開した。

1. 畜水産科学に関する研究、発明及び調査

(1) 研究

下記のア～ウの研究を行った。

ア. アユ冷水病不活化ワクチンの開発に関する研究

アユ冷水病不活化ワクチンとしてアユ冷水病菌由来コラゲナーゼを応用するため、コラゲナーゼの大量培養法並びにその精製・濃縮技術に関する検討を行った*。

コラゲナーゼの大量培養法並びにその精製・濃縮技術の確立に向けて、一定の成果が認められた。

*: 本研究は、(独) 立行政法人科学技術振興機構 (JST) からの「成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム シーズ顕在化タイプ」(2 か年事業の 2 年目) の助成を受けて行った。

イ. トルクテノ・スス・ウイルスに関する研究

トルクテノ・スス・ウイルス 2 型 (TTSuV2) のわが国における浸潤状況を調査した。TTSuV2 はわが国では広く存在し、その検出率が高いことが判明した。

ウ. その他

ヒラメ β 溶血性レンサ球菌症不活化ワクチンのカワハギへの魚種拡大に関する一連の研究の成果により、関連法人である松研薬品工業株式会社が承認事項変更申請を行った。

(2) 調査・情報交換

上記「(1) 研究」に関する調査及び情報交換を行うため職員を派遣した。

- ① 神奈川県水産技術センター内水面試験場 (神奈川県)
派遣日: 平成 26 年 7 月 4 日

目 的：アユ冷水病不活化ワクチンの開発に関する研究
派遣人数：1名

② 滋賀県水産試験場（滋賀県）

派 遣 日：平成26年9月8日～9日

目 的：アユ冷水病不活化ワクチンの開発に関する研究
派遣人数：2名

③ 和歌山県水産試験場内水面試験地（和歌山県）

派 遣 日：平成26年12月15日～16日

目 的：アユ冷水病不活化ワクチンの開発に関する研究
派遣人数：1名

2. 畜水産科学に関する技術者の養成及び知識の普及

(1) 学会、研究会等への参加

獣医学及び水産学に関係する学会、研究会等に職員を参加させ、最新の学術・技術情報を収集させた。

① 日本豚病研究会・日本豚病臨床研究会・日本養豚開業獣医師協会合同集会「PEDの現状と対策、今後の課題」

開 催 日：平成26年10月10日

場 所：Meiji Seika ファルマ

派遣人数：1名

② 日本医師会・日本獣医師会連携シンポジウム「人と動物の共通感染症を考える－狂犬病の現状と対策」

開 催 日：平成26年10月28日

場 所：日比谷公会堂

派遣人数：3名

③ 日本獣医師会小動物臨床講習会「狂犬病予防対策・動物愛護行政について」

開 催 日：平成26年11月19日

場 所：大宮ソニックシティ

派遣人数：1名

④ 第10回アユ冷水病研究会

開 催 日：平成27年1月26日

場 所：当財団会議室

参加人数：8名

派遣人数：4名

(2) 講習会等への講師の派遣

該当なし

(3) 所内研究会の開催

所内研究会を開催して職員を参加させ、所内研究・共同研究の成果及び最近話題になっている学術情報について紹介し、討論を行った。

① 開催日：平成27年3月17日

参加人数：7名

演題：「ワクチンが関与する免疫介在性疾患について」

「アユ冷水病菌由来のコラゲナーゼを応用したトキソイドワクチンについて」

3. 微生物学の研究並びにその成績に基づく畜水産用、愛玩動物用及び野生動物用の生物学的製剤及びその他医薬品の製造

該当なし

4. 人と動物の共通感染症の予防のための動物衛生の研究、調査及びそれを基にした公衆衛生知識の普及啓発

(1) 狂犬病についての知識及び狂犬病予防注射の普及に関する啓発活動

ア. 狂犬病啓発用リーフレットの作成・配布

啓発用リーフレット「ご存知ですか？狂犬病」を作成し、全国の獣医師会等に配布した。

イ. 狂犬病啓発用ポスターの作成・配布

啓発用ポスター「狂犬病のない国でありつづけるために」を作成し、関東周辺の獣医師会等に配布した。

5. 研究、発明及び調査の成績を公にするために、内外での発表会の開催、印刷物の刊行またはホームページ等への公表

(1) 学会等における研究成果の公表

学会、学術誌等において、上記「1. 畜水産科学に関する研究、発明及び調査」の「(1) 研究」の成果を公表した。

ア. 口演「冷水病菌由来コラゲナーゼがアユ表皮に及ぼす影響の検討」

開催日：平成 26 年 9 月 22 日～23 日

学会等：平成 26 年度日本魚病学会秋季大会

場 所：九州大学

発表者：中山仁志（和歌山県水産試験場）、田中啓友、寺村直子、服部俊治（ニッピ・バイオマトリクス研究所）、相川英明（神奈川県水産技術センター）、岡村貴司（滋賀県水産試験場）、本川祥吾、桑原正和、天野健一（松研薬品工業株式会社）

イ. 口演「わが国におけるトルク・テノ・スス・ウイルス 2 型の検出率調査」

開催日：平成 26 年 10 月 4 日

学会等：平成 26 年度日本産業動物獣医学会（九州地区）

場 所：鹿児島県民交流センター

発表者：古川絢賀（鹿児島大学共同獣医学部）、天野健一（一般財団法人松岡科学研究所）、小澤真、高木光博、出口栄三郎（鹿児島大学共同獣医学部）

ウ. 口演「静岡県の犬における狂犬病抗体保有状況について」

開催日：平成 27 年 2 月 6 日

学会等：第 51 回静岡県公衆衛生研究会

場 所：静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ

発表者：大沢悠平、牛田匡貴、山下昭広、村松芳貴（静岡県動物管理指導センター）、太田智（静岡市動物指導センター）、天野健一（松研薬品工業株式会社）

エ. 論文「カワハギレンサ球菌症ワクチンの薬理効果」

学術誌名：魚病研究、**49** (2014) p. 130-136

著 者：南隆之、岩田一夫（宮崎県水産試験場）、桑原正和、天野健一（一般財団法人松岡科学研究所）、水田篤（一般財団法人宮崎県水産振興協会）、山下亜純（愛媛県農林水産研究所）、福田譲（大分県農林水産研究指導センター）、西木一生、津江佑哉、吉田照豊（宮崎大学農学部）

6. 特定事項の研究の受託

(1) 病性鑑定、試験検査受け入れ

下記の試験検査の委託を受け実施した。

ア. 狂犬病ウイルス抗体検査

委託者：(公社) 東京都獣医師会

検体数：29 検体

7. 畜水産科学に関する研究の助成及び補助事業

(1) 研究助成

宮崎大学及び鹿児島大学に対し研究助成を行った。

ア. 宮崎大学農学部海洋生物環境学科魚類感染症学研究室

研究責任者：吉田照豊教授

イ. 鹿児島大学共同獣医学部産業動物獣医学教室

研究責任者：出口栄三郎教授

(2) 研究委託

滋賀県水産試験場及び神奈川県水産技術センター内水面試験場に対し、アユ冷水病不活化ワクチンの開発に関する研究委託を行った。